

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

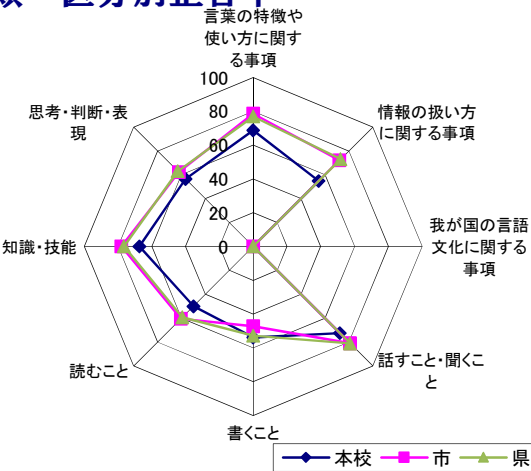
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.8	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	54.7	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	72.6	81.0	81.1
	書くこと	53.8	47.2	52.8
	読むこと	50.0	60.5	59.3
観点	知識・技能	67.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	56.6	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

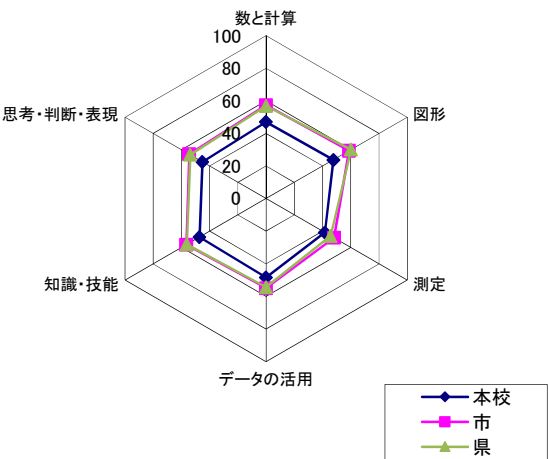
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●「育てた」と「返事」という漢字を読む問題の正答率は、それぞれ83.0％、81.1％であり、市の平均より8.9ポイント、7.6ポイント低い。 ●漢字を書く問題の正答率は、それぞれ75.5％、49.1％、49.1％であり、市の平均より7.4ポイント4.3ポイント、25.5ポイント低い。	・漢字テスト等を用いて理解が不十分な漢字を把握し、繰り返し練習することで定着を図る。また、漢字を使った熟語作りや、短文作成といった学習活動を通して、漢字への理解を深めていく。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が54.7％であり、市の平均より17.5ポイント低い。	・国語辞典の使い方を再度確認したり、練習したりして辞典の扱いに慣れさせるとともに、あらゆる教科において国語辞典を活用する機会を設ける。
話すこと・聞くこと	●話し合いにおいて、司会者の話し方の工夫を捉えることができるという問題では、正答率が66.0％であり、市の平均より15.1ポイント低い。	・自分と相手の考えや意見を比べたり、話の要点をまとめたりする活動を色々な場面に取り入れて、話すことや聞くことの力をつけていく。
書くこと	○文章を書く問題では、指定された長さで文章を書くこと、自分の考えを2段落構成で文章を書くこと、自分の考えを明確にして文章を書くことやそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題で、正答率がそれぞれ60.4％、37.7％、58.5％、58.5％であり、市の平均よりそれぞれ8.4ポイント、2.1ポイント、7.7ポイント8.2ポイントとすべて高い。	・日頃の授業や家庭学習の中で、日記や短作文などを取り入れて、文を書くことについて抵抗がなくなるようにする。 ・段落やかぎかっこなどの使い方等、原稿用紙の書き方を作文を書くときに再確認し、正しく使えるようにする。
読むこと	○文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く問題では、正答率が24.5％であり、市の平均より0.9ポイント高い。 ●登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題や文章の内容を捉える問題では、正答率がそれぞれ62.3％、24.5％であり、市の平均より13.5ポイント、24.5ポイント低い。	・文章を読む際に中心となる語や文に気を付けさせ、読解力を向上させる。 ・物語や説明文の学習の中で段落ごとに要点を読み取る活動を行い、文章の内容を捉える練習を積んでいくようにする。 ・物語文の学習では、登場人物の気持ちの変化を捉えたり、想像したりして、読解力を高めていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.0	57.4	56.9
	図形	47.6	58.7	60.1
	測定	41.5	48.1	45.7
	データの活用	48.4	54.9	54.3
観点	知識・技能	47.2	56.6	56.2
	思考・判断・表現	45.1	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

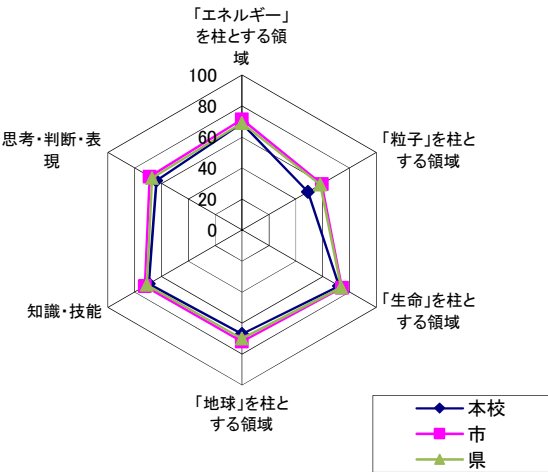
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●2けた×1けた＝3けたの計算をするの問題では、正答率が54.7%であり、市の平均より26.8ポイント低い。 ●同分母の分数のひき算について、計算の仕方を説明する問題では、正答率が20.8%であり、市の平均より23ポイント低い。	・数や計算についての基礎的・基本的な活動を充実させる等、高学年での学習につなげられるような指導を工夫する。 ・繰り上がりのある乗法の仕方を理解し、正確な計算ができるよう計算練習を行う。特に手順通りに計算することの大切さについて繰り返し指導をし、理解を図れるようにする。 ・同分母の分数のひき算の仕方を理解し、正確な計算ができるよう繰り返し計算練習を行う。また計算方法を説明できるようにする。
図形	●箱の横の長さから球の半径を求める問題では、正答率が30.2%であり、市の平均より26.3ポイント低い。 ●正三角形を作図する問題では、正答率が66.0%であり、市の平均より9.5ポイント低い。	・球の半径や直径を利用して長さを求められるように視聴覚教材を活用して確認し、理解を図れるようにする。 ・三角形を作図する学習では、視聴覚教材の活用をし、繰り返し作図させることで作図に慣れ、理解を深めるようにする。
測定	○時間が経過する前の時刻を求める問題では、正答率が58.5%であり、市の平均より1.3ポイント高い。 ●重さを、基準量のいくつかで考え、説明する問題では、正答率が32.1%であり、市の平均より14.6ポイント低い。	・問題文をよく読み、解答への手掛かりになっている箇所を見つけ出せるよう繰り返し指導をすることで、文章問題への理解を図れるようにする。
データの活用	●二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える問題では、正答率が47.2%であり、市の平均より13.8ポイント低い。 ●二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ問題では、正答率が56.6%で、市の平均より3.5ポイント低い。	・二次元の表の書き方・読み方や棒グラフの読み方を繰り返し指導するとともに、社会や理科等他の教科の学習と結びつけながら指導することで理解を深めるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.8	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	49.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.2	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	67.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	69.5	72.5	70.9
	思考・判断・表現	63.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○豆電球に明かりがつく回路とつかない回路を見分ける問題では、正答率が79.3%であり、市の平均より6ポイント高い。 ●輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題では、正答率が79.3%であり、市の平均より11.3ポイント低い。	・風とゴムの力のはたらきの学習では、実験の結果を正確に記録し、グループで比較しながら結果について考察したり、まとめたりする時間を十分に取し、正しい知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○実験結果から推測して、重さを揃えた異なる材質のおもりのうち最も体積が大きいものを答える問題では、正答率が37.7%であり、市の平均より1ポイント高い。 ●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ問題では、正答率が5.7%であり、市の平均より21.3ポイント低い。 ●実験結果から、同じ体積でも材質の種類によって重さは異なることを答える問題では、正答率が75.5%であり、市の平均より13.2ポイント低い。	・実験の計画を立てる際、予想される結果について様々な面から考え、十分話し合いを持ち、実験結果と結び付けられるようにする。また、結果から考察し、自分の言葉でまとめたものを全体で共有し、理解を深めるようにする。
「生命」を柱とする領域	○クモが昆虫といえるかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題では、正答率が66%であり、市の平均より2ポイント高い。 ●観察した植物に共通のつくりを答える問題では、正答率が71.7%であり、市の平均より9.7ポイント低い。	・生き物や植物を観察する学習では、できるだけ多くの種類を観察し、作業用紙に記録した観察結果をグループや学級全体で共有しながら、比較検討する力を育てていく。
「地球」を柱とする領域	○温度計の正しい使い方を選ぶ問題では、正答率が88.7%であり、市の平均より4.9ポイント高い。 ●日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、正答率が39.6%であり、市の平均より19.5ポイント低い。	・実験や観察の時間を十分に取し、児童一人一人が実感的に理解できるようにする。 ・実験や観察結果から推測する機会や、練習問題に取り組む時間を設定することにより、理解を深めていけるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の肯定的回答は34.6%,「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答は41.8%で、県の平均より高い。家庭学習の取り組み方について、学校で呼びかけを行い、共通理解を図って実践している成果が表れている。

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定的回答は76.4%,「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答は56.4%,「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」の肯定的解答は52.7%であり、それぞれ県の平均より高い。この結果から学習に対して興味関心をもって取り組んでいることがわかる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の肯定的回答は38.2%であり、県の平均より高い。一人一台端末や学校図書館を活用して、各教科や総合などで自分の課題に関する情報を得るため、調べ学習を取り入れてきた成果だと考えられる。

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」が60%,「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」が41.8%,「自分には、よいところがあると思う。」が54.6%,「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている。」が50.9%,「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」が69.1%で、すべて県の平均より高い。自己肯定感が高く、相手を思いやる心が育ち、充実した生活を送っている。学習や生活のきまりを学校全体で共通理解を図って指導し、認め・励ます教育や思いやりの心を育成する取り組みをしてきた成果が表れている。

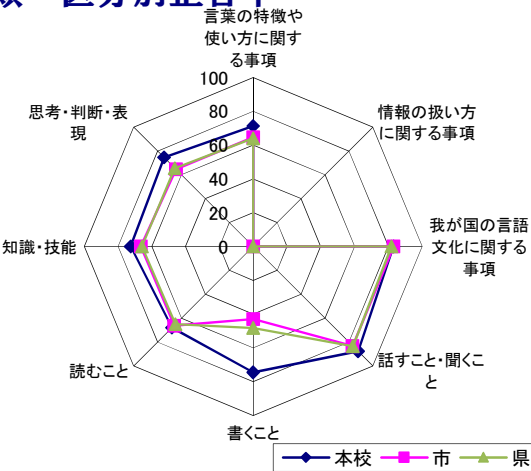
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定的回答は、30.9%であり、県の平均より低い。各教科において考えを記述する時間を確保したり、学校行事等の振り返りを書いたりすることで、自分の考えを文章にして表現する力を伸ばしていきたい。

●「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」の肯定的回答は34.6%であり、県の平均より低い。自分の考えを表現することを朝の会など日常生活に取り入れたり、授業の発表時の声掛けを工夫したりしていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.3	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.7	83.3	83.4
	書くこと	74.5	42.8	48.2
	読むこと	67.9	66.1	65.1
観点	知識・技能	72.5	66.5	65.9
	思考・判断・表現	74.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

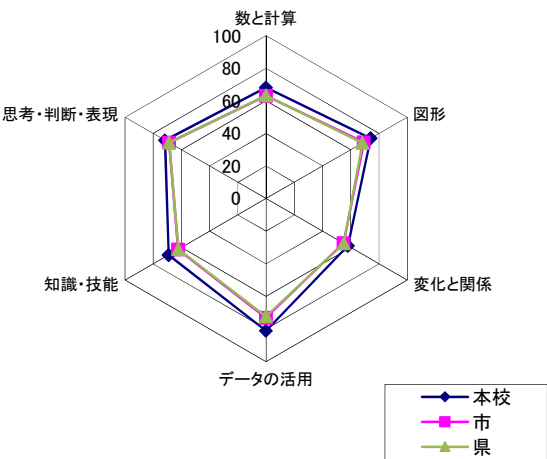
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字を読んだり書いたりする問題において、6問全てが市の平均より高い正答率となった。 ○熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題では、正答率が41.5%であり、市の平均より8.5ポイント高い。	・物語の創作、日記の記述、調べ学習のまとめなど、児童が主体的に漢字を活用する場面を設定するなど、漢字の定着を深めるとともに、語彙力や表現力のさらなる向上を目指す。 ・熟語の組み合わせの理解を深めるために熟語の構成要素の意味や、構成パターンと意味の関連性を丁寧に指導することに重点を置く。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざの使い方を理解し、「ちりも積もれば山となる」を正しく使っている文を選ぶ問題では、正答率が83.1%であり、市の平均より0.1ポイント低い。	・様々なことわざに触れられるようにしたり、文章の中で活用したりできるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	○「絵を使った学校しようかい」と「歌の発表」のどちらがよいと思うかについて、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題では、正答率が98.1%であり、市の平均より12.3ポイント高い。	・相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるよう、授業中など話合いの機会を多く設け、継続的に指導していく。
書くこと	○「書くこと」の領域に係る問題では、対象問題4つすべてが市の平均より30ポイント程度高い。	・段落の使い方などの文法や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことを意識して学習に取り組ませる。 ・授業の振り返りや作文の宿題等で、児童が意識して文章を書く機会を多く設けるようにしていく。
読むこと	○文章の内容をまとめた文の空欄に適する言葉を書く問題では、正答率が71.7%であり、市の平均より10.4ポイント高い。 ●傍線部の発言をした人物として、適するものを選ぶ問題では、正答率が50.9%であり、市の平均より13.5ポイント低い。	・説明文において、段落ごとに要点を的確に読み取る活動を継続的に行う。 ・文章を読む際に、中心となる語や文を意識させ、読解力を向上させる。 ・文章を読む際に「誰が言ったことなのか」や指示語、会話文の前後にある文章に注目させるなどして、登場人物の役割や関係性、発言の意図などを読み取る力の向上を目指す。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	63.0	63.3
	図形	74.1	69.2	68.3
	変化と関係	57.9	54.8	55.0
	データの活用	81.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	69.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	71.7	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

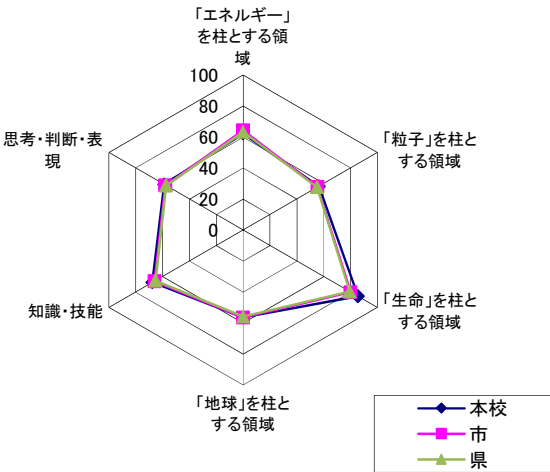
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、正答率が66.0%であり、市の平均より17.4ポイント高い。 ●図の中の数量を式で表す問題では、正答率が54.7%であり、市の平均より5.8ポイント低い。	・具体的な場面や解決過程を式に表現したり、逆に、式を通して場面の意味を読み取ったり、式を「算数の言葉」として用いられるように、スモールステップで学習を進め、無理なく確実に定着を図っていく。
図形	○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、正答率が62.3%であり、市の平均より8.4ポイント高い。 ●ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題では、正答率が64.2%であり、市の平均より1.2ポイント低い。	・実際に三角定規を使って様々な角を作り、視覚的に理解を深める活動を通して、角度の理解をさらに深めるようにする。 ・「もとにする位置」の重要性を明確にし、様々な具体例を提示して学習することで、空間認識能力や問題解決能力の向上に役立てる。
変化と関係	○割合を使った長さの求め方を説明する問題では、正答率が50.9%であり、市の平均より9.1ポイント高い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が49.1%であり、市の平均より0.1ポイント高い。	・割合の計算の基本的な学習を通して、割合の概念を深め、長さの計算への繋がりを自分の言葉で説明する学習の場の設定をする。 ・2つの数量の関係についての問題に数多く触れさせ、その関係を表や式に表しながら、その変化の様子や特徴を粘り強く考えさせる。自分の考えを自分の言葉で表していくことに時間をかけ、丁寧に取り組ませる。
データの活用	○二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える問題では、正答率が86.8%であり、市の平均より12.5ポイント高い。 ○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題では、正答率が81.1%であり、市の平均より9.3ポイント高い。	・グラフや表から読み取れることを自分なりによく考え、根拠を明確にして自分の言葉で説明する学習活動を繰り返し実践していく。 ・児童にとって身近で分かりやすいデータを活用し、折れ線グラフや表の表し方の理解・習熟を図り、基本を徹底させる。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.3	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	56.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	85.5	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	56.4	56.4	55.8
観点	知識・技能	67.6	66.0	65.3
	思考・判断・表現	58.8	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○プロペラが回らない回路でプロペラが回るようにするためにはどこをどう変えればよいのかを答える設問では、正答率が67. 9%であり、市の平均より3. 7ポイント高い。 ●乾電池のつなぎ方が何つなぎかを答える設問では、正答率が60. 4%であり、市の平均より6. 9ポイント低い。	・今後も実験で実際に回路を作る際に、回路のつなぎ方、乾電池のつなぎ方、スイッチの位置等を、1つ1つ丁寧に付けていく習慣を身に付けるようにする。 ・何というつなぎ方なのかを、実験中に何度も繰り返して使用するようにし、重要な語彙が定着するようにする。
「粒子」を柱とする領域	○水を冷やし続けるとどうなるかを答える設問では、正答率が67. 9%であり、市の平均より11. 6ポイント高い。 ○金属はどのように温まっていくのかを、コの字形の金属板を使って答える設問では、正答率が86. 8%で市の平均より6. 6ポイント高い。 ●注射器に水と空気を半分ずつ入れ、ピストンを押したときのようなすがどうなるかを答える設問では、正答率が45. 3%であり、市の平均より11. 2ポイント低い。	・今後も1人1人が体感できる実験を取り入れることにより、正しい知識を身に付けさせるようにする。 ・空気だけの時、水だけの時を順に実験で確かめながら進め、空気と水と一緒にして行う実験でも、自分なりの仮説を立て、結果から結論を導き出すなど、問題解決の学習活動を重視していく。
「生命」を柱とする領域	○骨のはたらきを答える設問では、正答率が56. 6%であり、市の平均より12. 1ポイント高い。 ○オオカミキリやトノサマガエルが冬をどのように過ごしているのかを答える設問では、正答率が94. 3%で、市の平均より5. 5ポイント高い。	・今後も人体の観察において、模型を活用したり自分の体で体感させたりすることで、必要な知識を身に付けられるようにしていく。 ・今後も記録の方法を工夫するとともに、児童の観察記録をクラス全体で見直す機会を設け、共通点や差異点に着目する活動を設けていく。
「地球」を柱とする領域	○1日の気温はどのように変わるのかを答える設問では、正答率が60. 4%であり、市の平均より15. 8ポイント高い。 ○満月が定刻にどの位置に見えるかを答える設問では、正答率が79. 3%であり、市の平均より8. 8ポイント高い。 ●水が水蒸気になって空気中に出ていくことを何というかを答える設問では、正答率が43. 4%であり、市の平均より16. 6ポイント低い。	・今後も実験の結果から得られた結論を、クラス全体で共有し日常生活に広げて考えられるように指導していく。 ・実験から得られた結果、分かったことを自分の言葉でまとめるとともに、理科学的な言葉を使ったまとめができるような授業を展開する。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、目標が示されている。」の肯定的回答割合は94.5%、「学習したことをふり返る活動をよく行っている。」は85.5%、「ノートには、学習の目標とまとめを書いている。」は90.9%であり、県の平均より高い。日頃から授業の目標を意識して取り組んだり、授業の学習内容を自分の言葉で振り返ったりする習慣が身に付いている児童が多い。引き続き、授業のめあてを明確に示したり、課題を解く見通しを立てさせたりしながら、学習内容を意識して取り組めるように支援していきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の肯定的回答割合は100%で、県の平均より5.1ポイント高い。委員会や係の仕事に責任をもって、忘れずに行える児童が多く、学校行事にも積極的に取り組んでいる。係活動で自分の考えをもとに工夫して行えるよう助言したり、認め合い活動を取り入れたりしながら、さらに児童が活躍できる場を設けていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的回答割合は87.3%であり、県の平均より9.3ポイント高い。授業でも自分の考えをもつことができれば、友達に伝えられる児童が多い。今後も自分の考えを書かせたり、考えがまとまらなくてもそれを言語化したりできるよう、工夫しながら話し合い活動を取り入れていきたい。

●「学習は好きですか。」の肯定的回答割合は、国語が69.1%、社会が45.4%、算数が63.7%と県の平均より低い。「学習は、将来のために大切だと思いますか。」の肯定的割合は県平均より高いが、学習することがあまり好きではない児童が多かった。スモールステップで小さな成功体験を増やしつつ、学習内容を生活と結びつけることで、学習する楽しさを味わえるようにさせたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く活動を取り入れながら自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成	自分の考えをきちんともてるよう、書く活動や問い返しなどを意図的に取り入れている。さらに、自分の考えを軸にペアやグループ学習を取り入れ、主体的・協働的に考えを深め合えるための授業づくりに努めている。自分から進んで話し合いに参加できるようになるための手段の一つとして、一人一台端末の活用を意識した取り組みを行っている。	「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の設問の肯定的回答割合は、4学年が69.1%で県の平均より5.3ポイント高く、5学年が54.5%で7.0ポイント低かった。「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の設問の肯定的回答割合は、4年生が72.7%で県の平均より2.0ポイント低く、5年生が76.4%で2.5ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学ぶ必要性を感じている児童が多いが、自ら課題を解決しようとしているか、学ぶ楽しさを実感しているか問う設問で、肯定的回答割合が県の平均より低かった。	進んで問いを追究し、自らの学びを工夫する子を育成	・児童自身が学習のねらいや見通しをもち、各教科等の「見方・考え方」を働かせて取り組むことができるように、明確な課題の提示や発問を工夫する。 ・児童の問いを軸に授業を展開する単元計画を工夫し、課題を解決しながら学ぶ楽しさを味わえるようにする。